

## おわりに

ここまで会津若松市、行田市、宇都宮市、仙北市、太原市の5つの地域における6つの事例を見てきた。ここではそれらの事例と絡めて、タイトルにもなっている行政の可能性について述べていきたい。まず地域ごとに行われたまたは行われている行政の動きを述べていく。会津若松市では大河ドラマ「八重の桜」の放映のタイミングに合わせて観光事業の強化や住民が待ち望んでいた鶴ヶ城再建を行うなどして東日本大震災で遠のいている観光客を取り戻すため様々な事業を行っている。行田市では登録成功はならなかったものの、さきたま古墳群を世界遺産にする事業を行い住民の観光事業への関心を高ませた。宇都宮市ではその時代の地域の状況に合わせた条例によって住民のよりよい生活を支えている行政と、宇都宮市のフェアトレードタウン認定に向けて民間の活動に対するこれからの協力が期待される行政の姿が見られた。仙北市では田舎であることの良さを最大限に生かした地域住民と密着した観光事業の成功をおさめている。太原市では国際マラソン大会によって住民の生活をより健康的で豊かなものにしていく。これらの動きから私は行政の可能性を感じる。会津若松市や仙北市、太原市のような成功例からはもちろんだが、行田市のような事例においても改善の余地が見受けられる。また宇都宮市では特産品を生かした条例づくりやフェアトレードタウン運動への協力が期待されている。行政ができることは多岐にわたり、それが持つ力は計り知れない。それが地域住民との協力のもとであればなおさらだ。地域の特色と地域住民の色に合った行政を行うことで、2つとない事業を行うことが可能だろう。これからも各地域の行政の動きに注目である。